

特集：2010年度日本数学会出版賞受賞者のことば

NHKスペシャル「100年の難問はなぜ解けたのか 天才数学者～失踪の謎～」 取材班及び春日真人ディレクター

この度は日本数学会出版賞をいただき、誠にありがとうございます。受賞の喜びですっかり忘れていましたが、たしか番組制作中はスタッフ一同「フィールズ賞受賞を辞退したペレリマン博士にならって我々もあらゆる賞を拒否するぞ!」と息巻いていたのです...

番組は抽象的な数学の概念を映像化する無謀な試みだったためか、当初は周囲に心配されました。「本当に番組になるの?」「何の役に立つ?」等々。しかし全くの杞憂でした。

まず第一に、日本の数学者の方たちが「ポアンカレ予想を分かりやすく例える」作業を徹底して助けて下さいました。本間龍雄氏、松本幸夫氏、小島定吉氏、根上生也氏、塩谷隆氏、山口孝男氏、藤原耕二氏、茂手木公彦氏ほか、多くの方が辛抱強く我々の愚問に付き合い、映像化のアイデアを下さいました。そしてポアンカレ予想解決に半生を費やした方たちの証言。ハーケン、ストーリングス、ポエナル、スメール、サーストン（敬称略）が、難問の持つ魅力とその底なしの魔力の一端を生き生きと語ってくれました。さらに、難問解決の最終走者ペレリマンの直接取材こそ叶いませんでしたが、彼の人となりを知る知人たち 深谷賢治氏、アブラモフ、ヴェルシック（ステクロフ）、エリアッシュバーグ、チーガー、ティアン、モーガン、クライナー、グロモフ（敬称略）たちが、ペレリマンの消息を案じつつその素顔を多面的に語ってくれました。

番組の放送後、同僚が興奮気味にこう言ってくれました。「テレビにはまだ、こんなに魅力的な“未知の分野”があったんだね」数学という、とてつもなく魅力的で奥深い世界に導いて下さった関係者の皆さんに感謝するとともに、今後さらに新しい表現で数学の魅力を発信したいという気持ちを新たにしています。本当にありがとうございました。

制作スタッフ代表 春日真人